

北九州市立学入学式 学長式辞

本日、新しく新入生として迎えましたのは、5つの学部と1つの学群を合わせ学士課程に1,494名、4つの大学院研究科に187名、i | Designコミュニティカレッジに47名、合わせて1,728名の皆さんです。大学全体の学生総数は6,500人を超え、大阪公立大学、東京都立大学につき、公立大では3番目の規模を持ち、創立以来78年の歴史を持った総合大学となっています。

本学は2016年に70周年を迎えた際、30年後の未来に向けて3つのビジョンを策定し、活力ある未来を創造する決意を固めました。それは北方キャンパスの本館ロビーにも掲げられている「地域と歩む」「環境を育む」「世界（地球）とつながる」というものです。もうご覧になったでしょうか。ωつのビジョンは個々ばらばらに存在するものではなく、相互に強い関連性を持ち、また地域や世界、環境を複眼的、立体的に捉えようとする人間の知性を含んでいます。

ところで、16世紀の中国・明の時代に出版された『菜根譚』という書物をご存じでしょうか。この本は古典という位置づけのみならず、重要な処世訓として日本の中でも読み継がれ、多くの人々の座右の書となっています。この本の中で、著者の洪自誠は次のような内容の一節を書き記しました。

「魚の網をはったら幸運なことに、思いがけず大きな鳥を捕獲した。はたまた、かまきりが獲物を狙っていると、その後ろから雀がかまきりを狙っている。仕掛けの中にまた仕掛けが隠されていて、思わぬ異変が異変を生む。知巧（ちこう）、すなわち小賢しい知恵など何の役に立つだろうか」というものです。

人は自分の目の前のことに集中するあまり、その場に対応した安易な思考、行動をとってしまいがちです。気づくとこの一節のかまきりと同じ運命となる場合があります。それを洪自誠は「知巧」、すなわち小賢しいたくらみと呼んだのです。また目先の幸運を喜んでも、その中に仕掛けが隠されていることもあり、その際の慢心を厳に戒めています。大鳥を捕獲しても、能力を超えた網が破れて、漁ができなくなるかもしれないのです。

先ほどのビジョンで取り上げられた「地域」「環境」「世界」という見方は、こうしたものと異なり、目の前のことに取り組みながら、より広い視野で自分本来の姿を位置づけるものです。地域という実践的な場で活躍したとしても、多様な世界とのつながりや未来の環境も重視するという複眼的、立体的な考え方が含まれているのです。

本学は教養科目、専門科目や多彩な課外活動などを通じて、自分、地域、世界、環境を立体的、複眼的に捉える素養を育成してまいります。こうしたことを実現す

るために、優秀な教授陣を描えた上に、体系的なカリキュラムを大変よく考えて用意しております。この学修環境の中で、思う存分、勉学に励み、教職員や学生同士で交流を図っていただければと思います。

しかしながら、順調な学習や活動も、場合によってはスランプを経験するかもしれません。経済学の巨匠であるヨーゼフ・シュンペーター（Joseph Schumpeter）は、経済成長の行き詰まった段階から、次の新しい段階に進むために、資源の新しい組み合わせ新しい発想で突破することを説きました。進めてきた学習や活動が行き詰まった時、手持ちの素材をもう一度、吟味し、より広く、新しい視点から不足するピースを見出して、総合的に組み直してみることにより、新しいブレークスルーを得ることができかもしれませんが。こうしたことを繰り返す大学生活の中で、次代を複眼的、立体的に把握し、「時代を読む力」をぜひ育んでいただきたいと思います。

大学生や大学院生を、そうたらしめているのは、深い専門性と広い教養に基づく総合知を駆使する力であると思います。それと同時に、より広い視野で自分本来の姿を客観的に位置づけるとともに、次代を読む力を身に着ける素養があることだと思います。目の前のことに真摯に取り組みながら、従来のテキストを超える、普遍的で新しい付加価値を生み出すことができる可能性を、皆さんは持っていると思います。

ます。それを表現するための初手を、皆さんはどのように打つのでしょうか。最初の数か月が大変重要な時間帯です。まずは学生生活の方向性を決定する時期として、よく考え、有意義に過ごし、大局的な観点から学生生活のイメージを持っていただければと思います。そして、その後の学習や活動が、様々な社会的ニーズに
え、地域や社会、そして人類の持続的で健やかなウエルビーイング（well-being）の達成に、大きく貢献されることを願いまして、私からのお祝いの挨拶
といたします。

二〇二四年四月五日

北九州市立大学長 柳井 雅人